

荒神谷遺跡 世紀の大発見から30年！



た場所から7m真横の位置で、銅鐸と銅矛が発見されました。この2つの組み合わせは青銅器文化を見直すきっかけとなったものです。なぜなら、銅鐸は近畿勢力のもの、銅矛は九州勢力のものと考えられていた2つが、同じ場所から発見されたからです。

その後、この荒神谷遺跡の発見に続き、山陰地方で弥生時代の遺跡が続々と発見されました。加茂岩倉遺跡（雲南市）、田和山遺跡（松江市）、妻木晩田遺跡（米子市）、青谷上寺地遺跡（鳥取市）、西谷墳墓群（出雲市大津町）、さらに平成12年には、出雲大社の巨大神殿に使われていたと思われる伝説の宇豆柱が発見されると、今まで考古学上それほど注目されていなかった“出雲”がにわかに脚光を浴びるようになったのです。

荒神谷遺跡は、古代出雲、あるいは古代日本の姿を知るために、極めて重要な遺跡です。

斐川町の神庭にある荒神谷遺跡の発見は、昭和58年、広域農道（出雲ロマン街道）建設にともなう遺跡分布調査で、県の調査員が田んぼの畦で、一片の土器（古墳時代の須恵器）を拾ったことがきっかけでした。翌年の昭和59年7月12日、銅剣の一部が姿を現しました。ちょうど今から30年前です。

最終的に確認された銅剣は358本。当時、全国で発見されていた銅剣の総数は、約300本で、荒神谷遺跡だけでその総数を上回る世紀の大発見となりました。

さらに翌年の昭和60年には、銅剣が発見され



(銅矛)

荒神谷遺跡の基礎知識

発見された青銅器の数と特徴

出土物

銅剣358本

・出雲型銅剣（中細型銅剣C類）と呼ばれる。

・荒神谷銅剣と加茂岩倉銅鐸にしか見られない謎の「X」印が、344本の銅剣に刻まれている。

銅鐸6個

・鉦として叩かれた痕跡があるものがある。

・県外で発見された銅鐸と、同じ鋳型で作られたと考えられているものがある。

銅矛16本

・全部の銅矛の袋部に鋳型の砂が詰まったままであった。

・北部九州に特徴的な「研ぎ分け」と呼ばれる綾杉模様が施されたものがある。

発見された場所？

・斐川町神庭。谷の最奥部の日当たりの良い傾斜地。青銅器が発見された場所や遺跡に向かう道程からは、神様が宿るとされる神名火山（仏経山）が見える。さらに奥に三宝荒神があることから、名称“荒神谷遺跡”となる。

なぜ発見された？

・農道（通称「出雲ロマン街道」）建設予定地にちょうど重なったから。予定地が数メートルずれていたら世紀の大発見は無かったかもしれません。

荒神谷青銅器のすごいところ

・銅剣・銅鐸・銅矛が同時に発見されたのは、他に例がなく、本数が総点数380点は驚異的。

・多くの青銅器が農作業や工事中に発見されるなか、荒神谷のように発掘調査によってきれいに並んだ状態で見つかることが珍しい。

・青銅器は、1本発見されてもその土地に勢力者がいたと考えられるものである。



(写真提供：島根県埋蔵文化財調査センター)



(銅鐸)

荒神谷遺跡発見30年の歩み

西暦	和暦	月日	こと が ら
1983	昭和58	4月12日	広域農道建設予定地の分布調査中に土器片を発見。「荒神谷遺跡」と命名される
1984	昭和59	7月12日	荒神谷遺跡発掘調査2日目、銅剣を発見
1985	昭和60	6月6日	銅剣が国の重要文化財に指定される
		7月19日	金属反応があったところから銅鐔を発見
		8月16日	銅鐔と並んで銅矛が出土。この二種類の同一箇所からの出土は国内初
1986	昭和61	3月15日	荒神谷遺跡に隣接して「出雲の原郷館」がオープン
1987	昭和62	1月8日	荒神谷遺跡が国の史跡に指定される
		6月6日	銅鐔6個・銅矛16本が国の重要文化財に追加指定される
1989	平成元		銅剣発見5周年のこの年、「荒神谷遺跡の謎を解く」論文・アイデア募集。この企画は1999年まで続く（全10回で応募作品数は1280通）
1990	平成2	12月8日	出土場所に複製銅鐔・銅矛を復元設置。この日の完成式典で創作舞踊「弥生の舞」を初披露
1995	平成7	5月1日	荒神谷史跡公園（約27.5ha）がオープン
1996	平成8	12月30日	加茂岩倉遺跡で39個の銅鐔を確認
1998	平成10	6月30日	荒神谷遺跡出土青銅器が一括して国宝に指定される
2000	平成12	7月12日	銅剣発見を記念して「ひかわ銅剣の日」を制定（日本記念日協会認定）
2004	平成16	7月12日	発見20周年記念「遺跡発見発端の地」記念碑設置
2005	平成17	10月6日	荒神谷博物館全館オープン
2014	平成26	4月5日	荒神谷博物館入館者15万人達成

国宝荒神谷青銅器出土30周年記念 平成26年度下半期記念イベント予定表

- 9月～11月 企画展開催
- 10月 赤米の稲刈り
- 11月24日 第2回神庭・荒神谷四季の植物観察会
- 11月 荒神谷クイズ大会（仮）
- 12月14日 第8回出雲学フォーラム
『邪馬台国と出雲（仮）』
- 2月 古代もちつき会
- 3月22日 第3回神庭・荒神谷四季の植物観察会
- 3月 荒神谷椿の森まつり



当時発掘担当者 足立克己氏 報道陣へ説明中

おたすね／
荒神谷博物館
☎29044

当時の県の発掘担当課長補佐は、NHK紅白歌合戦の審査員に選考されたという話も。日本にとってもそれだけ偉大な発見であったことが解ります。この講演会の詳しい様子は「出雲学通信第10号」で掲載予定です。（詳しくは、荒神谷博物館におたすねください。）

“出雲人の誇り” 荒神谷遺跡へ

国宝となった荒神谷遺跡の青銅器は地元での公開を望む声を受け、銅剣が発見された日を記念して制定された7月12日の『ひかわ銅剣の日』（※）に合わせて開催する特別展で特別公開しています。生まれた（出土した）地が斐川で、現在は県立古代出雲歴史博物館で展示されていますので、斐川で展示する時は、里帰り展示“としています”。

荒神谷博物館の常設展示では、国宝青銅器を見ることが情報も得た後に、実際にその

『国宝荒神谷青銅器の発掘調査を振り返って』

7月12日、荒神谷博物館で、国宝荒神谷青銅器出土30周年の

記念式典を開催しました。式典終了後には、当時、発掘担当者だった足立克己氏（県立古代出雲歴史博物館前学芸部長）の発掘当時と現在の青銅器についての講演がありました。

鍬の刃一つ当たらず、銅剣を発見。当時の作業員に感謝していることや一本目の銅剣が斜めにずれていたためそのま

ま斜めに掘り進めたこと。銅剣の取り出し作業が竹串や筆、エアースプレーまで使った繊細な作業だったことなどを笑いも交えての講演となりました。

当時の県の発掘担当課長補佐は、NHK紅白歌合戦の審査員に選考されたという話も。日本にとってもそれだけ偉大な発見であったことが解ります。この講演会の詳しい様子は「出雲学通信第10号」で掲載予定です。（詳しくは、荒神谷博物館におたすねください。）



（銅剣）



記念式典終了後に講演された足立克己氏